

# 令和2年度 八戸市中心市街地活性化基本計画の定期フォローアップに関する報告

令和3年5月

八戸市（青森県）

## ○計画期間：平成30年12月～令和6年3月（5年4月）

### I. 中心市街地全体に係る評価

#### 1. 令和2年度終了時点（令和3年3月31日時点）の中心市街地の概況

本市では、平成30年11月の認定基本計画に基づき、「多様な機能が集まり、多彩な人々が行き交う、八戸らしい文化を育むまち」をテーマに、「多様な都市機能が集積した活力あるまちづくり」、「地域経済の活力向上」、「移動しやすい、暮らしやすいまちづくり」の3つの基本方針のもと、各種事業に取り組んでいる。

目標指標の一つの「歩行者通行量」については、令和2年度は、令和元年度から9,811人減（16.9%減）の48,217人となり、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受ける結果となった。

取組の概要としては、令和2年3月に完成した「花小路整備事業」において、路面の美装化やバリアフリー化により市民等の利便性が大きく向上するとともに、令和2年度から新たに実施する「花小路周辺地区修景整備事業」によって、一層の快適な歩行空間を整備することで、中心市街地における回遊性の向上を図ってきた。

また、「美術館整備事業」及び「新美術館運営事業」については、令和3年3月に建物が竣工し、本年11月の開館に向けて、広場の整備を進めていくほか、オープニング事業やその後の事業の企画・運営を行っていくことで、中心市街地への来街機会の創出を図っていくところである。

さらに、これまでの中心市街地への公共施設の整備が呼び水となり、民間事業が促進され、令和2年7月に竣工した八日町複合ビル「DEVELD八日町」に続き、番町地区に新たな分譲マンションが建設中であり、中心市街地への定住促進により人口の社会増が期待されるところである。

今後は、目標達成に向けて、計画掲載事業を着実に実施、推進していくとともに、先に掲げた好要因を活かしつつ、ウィズコロナ、アフターコロナを見据え、「中心市街地にぎわい形成事業」により、一層の来街機会創出や回遊性向上に向けた取組を検討、実施していくこととしたい。

#### 【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

##### (1) 居住人口

（基準日：毎年度9月30日）

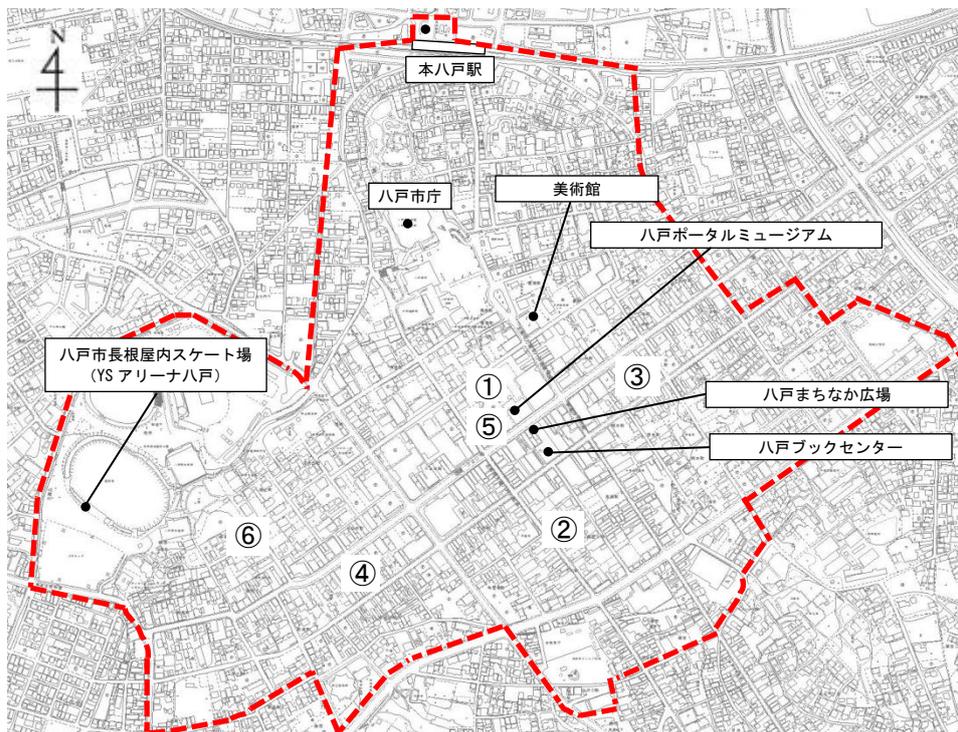
（中心市街地 区域）	平成29年度 （計画前年度）	平成30年度 （1年目）	令和元年度 （2年目）	令和2年度 （3年目）	令和3年度 （4年目）	令和4年度 （5年目）	令和5年度 （最終年度）
人口	4,735	4,691	4,598	4,586			
人口増減数	△48	△44	△93	△12			
自然増減数	△62	△52	△68	△64			
社会増減数	14	8	△25	52			
転入者数	148	142	135	149			

(2)地価

(基準日：毎年度1月1日、単位：円/㎡)

	平成29年度 (計画前年度)	平成30年度 (1年目)	令和元年度 (2年目)	令和2年度 (3年目)	令和3年度 (4年目)	令和4年度 (5年目)	令和5年度 (最終年度)
①番町35番11 (商業地)	72,300	72,500	72,700	72,700			
②大工町3番1 (商業地)	58,600	58,600	58,600	58,300			
③朔日町18番 (商業地)	61,200	61,800	62,400	62,400			
④廿三日町28番1 (商業地)	75,800	75,800	76,000	75,400			
⑤三日町4番1 (商業地)	129,000	131,000	133,000	132,000			
⑥稲荷町10番6 (住宅地)	52,700	52,700	52,700	52,700			

【公示地価位置図】



## 2. 令和2年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

当市中心市街地においては、八戸市や中心市街地関係者、八戸商工会議所、(株)まちづくり八戸等の連携による官民一体となった取り組みを進めている。

しかしながら、未だに収束の兆しが見えない新型コロナウイルス感染症による外出控えや消費マインドの停滞による影響は非常に大きく、継続して開催してきた各種事業やイベント等も中止・縮小を余儀なくされた。

その結果、第3期基本計画に掲げている、中心市街地の「公共施設来館者数」も大幅に減少しており、「歩行者通行量」についても3ヵ年に亘って減少するなど厳しい様相を呈している。

一方で、参考指標に掲げる「誘致企業就業者数」や「中心市街地における人口の社会増減数」は堅調な動きをみせているなど、これまでの事業成果が窺える。そして、本年11月に予定している「八戸市美術館」の再オープン後は、新たな人の流れも期待され来街者の増加に関しても大きな期待が寄せられている。

今後は、国の提唱する「居心地が良く歩きたくなるまちなか」づくりを念頭に、回遊性の向上や官民のオープンスペースの利活用等も踏まえ、商業機能の再生に向けた事業に一層取り組んでいくことが必要である。

以上のことから、八戸市におかれましては、引き続き目標指標の推移や現下の諸状況を調査・分析され、数値目標達成に向けて適切な対応策を講じるべきと思料する。

## II. 目標ごとのフォローアップ結果

### 1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
街なかの賑わい創出 (来街機会の創出と回遊性の向上)	歩行者通行量 11 地点 (平日・休日の 合計)	66,653 人 (H29)	75,600 人 (R5)	48,217 人 (R2)	C	①	①
	公共施設 来館者数	1,167,000 人 (過去の 平均値)	1,968,000 人 (R5)	965,996 人 (R2)	C	①	①
起業者支援と 魅力ある商店 街・オフィス街 づくり	空き店舗 ・空き地率	11.6% (H29)	8.2% (R5)	12.1% (R2)	C	①	①
	【参考指標】 創業等 支援件数	7 件/年 (H29)	年平均 10 件 (H30～R5)	12 件/年 (H30～R2)	A	①	①
	【参考指標】 誘致企業 就業者数	△16 人 (H29～H30)	230 人 (H30～R6)	216 人 (H30～R2)	B	①	①
街なかの居住 推進と移動の 利便性向上	中心市街地に おける人口の 社会増減数	△51 人 (H25～H29)	70 人 (H30～R5)	35 人 (H30～R2)	B	①	①

< 基準値からの改善状況 >

A : 目標達成、B : 基準値より改善、C : 基準値に及ばない

< 目標達成に関する見通しの分類 >

① 目標達成が見込まれる ② 目標達成が見込まれない

※ 関連する事業等の進捗状況が順調でない場合はそれぞれ 1、2 とする。

## 2. 目標達成見通しの理由

○「歩行者通行量」については、前年度比 9,811 人減の 48,217 人となり、基準値 66,653 人を下回る結果となったが、新型コロナウイルス感染症の影響による外出控え、及び日曜日の調査が終日雨天であったことが減少の主な要因と推察される。

今後は、令和 3 年 3 月に建物が竣工した「美術館整備事業」及び「新美術館運営事業」に関して、本年 11 月の開館に向けて、広場の整備を進めていくほか、開館プレ事業等を経て、オープニング事業やその後の事業の企画・運営を行っていくこと、また、「八戸まちなか広場運営事業」等により、中心街への来街機会の創出が見込まれることから、目標達成は可能と見込まれる。

○「公共施設来館者数」については、令和 2 年度の来館者数は 965,996 人となり、前年度より 684,052 人減少し、基準値 1,167,000 人を下回る結果となったが、これは新型コロナウイルス感染症の影響による外出控えの市民マインドや、感染症拡大を防止するため、休館等の措置を取った期間があったこと、施設利用者の定員を制限したこと、さらに、イベント等の休止を余儀なくされたことが大きく影響したと考える。

今後は、新美術館の開館による効果が見込まれるほか、八戸市長根屋内スケート場において、ウィズコロナ、アフターコロナを見据えながら、例年開催する予定であった各種競技会に加え、国体、世界大会やイベント等の実施により、来館者の増が期待できることから、目標達成は可能と見込まれる。

○「空き店舗・空き地率」については、平成 30 年度から令和 2 年度までの数値はいずれも 12.1% で推移しており、基準値 11.6% に到達していない状況である。当該数値が改善しないのは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、開業に対するマインドが抑制されていることが主な要因と考える。そのような中でも、明確にコンセプトを持ち、中心街での開業に活路を見出そうとする者が見られるなど明るい要因も伺えることから、それを後押しするべく、今後も引き続き「中心商店街空き店舗・空き床解消事業」、「はちのへ創業・事業承継サポートセンター事業」、八戸市中心市街地活性化協議会において空き店舗のマッチング事業等を実施することで、目標達成は可能と見込まれる。

○参考指標の「創業等支援件数」については、先述の「空き店舗・空き地率」と同様の要因により、令和 2 年度の数値は前年度に比べ減少したが、3ヶ年平均では 12 件と目標値 10 件を上回っている状況である。今後も、引き続き「はちのへ創業・事業承継サポートセンター事業」の実施により目標達成は可能と見込まれる。

○参考指標の「誘致企業就業者数」については、直近では 54 人増加、累計で 216 人増加となり目標値 230 人に近づいている状況である。今後も「ITテレマーケティング関連産業立地促進事業」等の継続実施により、目標達成は可能と見込まれる。

○「中心市街地における人口の社会増減数」については、直近の令和 2 年度は、「八日町地区複合ビル整備事業」の効果により 52 人増となった。平成 30 年度から令和 2 年度の 3ヶ年平均では 35 人の増となり、目標値の 70 人増に近づいている状況である。

今後は、計画期間中に民間事業者によるマンション建設が予定されるほか、「まちなか住宅取得支援事業」の実績値を鑑みても、中心街への居住ニーズが高いことから、目標達成は可能と見込まれる。

### 3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

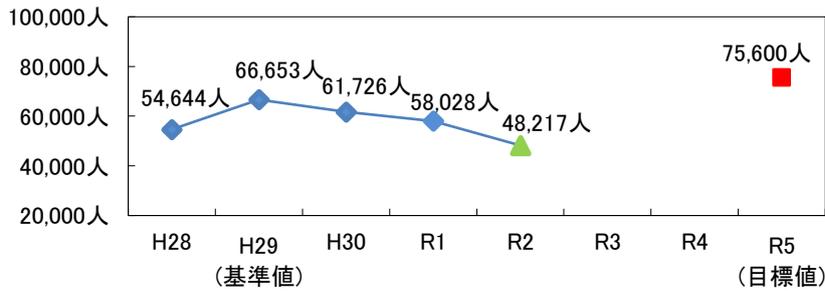
※前回より変更なし。

### 4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

#### (1) 「歩行者通行量11地点（平日1日と休日1日の合計）」

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 86～P. 89 参照

#### ●調査結果と分析



年度	(人)
H29	66,653 (基準値)
H30	61,726
R1	58,028
R2	48,217
R3	
R4	
R5	75,600 (目標値)

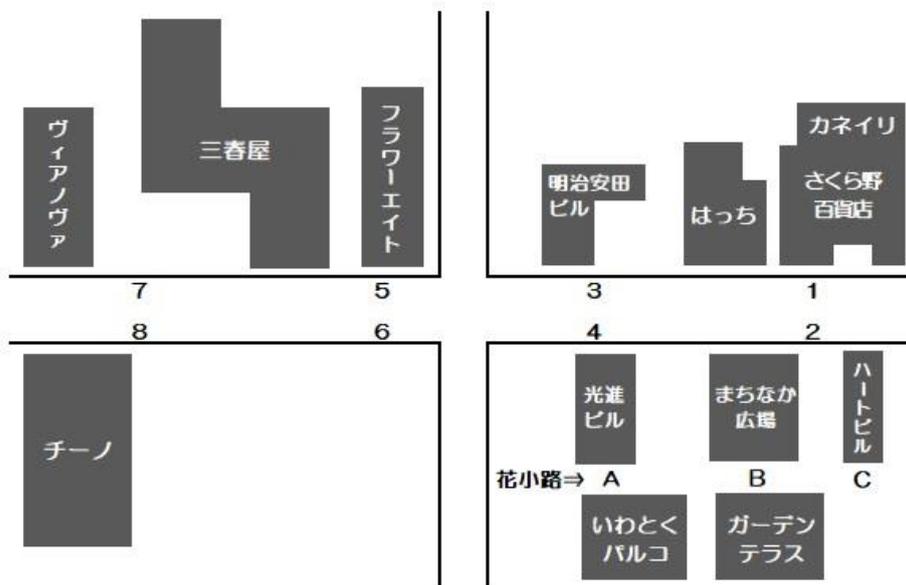
※ 調査方法：平日と休日それぞれについて、9～19時の歩行者数（自転車除く）を目視でカウント

※ 調査月：主要8地点…令和2年10月実施（12月取りまとめ）  
花小路3地点…令和2年10月実施（12月取りまとめ）

※令和元年度は花小路整備事業に伴い、花小路3地点のみ7月に実施

※ 調査主体：八戸市及び八戸市中心市街地活性化協議会

※ 調査対象：三日町・十三日町の8地点及び花小路の3地点 合計11地点



1～8（主要8地点）  
A～C（花小路3地点）

	H28	H29	H30	R1	R2
8地点	47,511	57,939	53,231	48,900	40,244
3地点	7,133	8,714	8,495	9,128	7,973
合計	54,644	66,653	61,726	58,028	48,217

## <分析内容>

「歩行者通行量」については、平日・休日合わせた 11 地点の計で、前年度比 9,811 人減の 48,217 人となり、基準値 66,653 人を下回る結果となった。内訳として、主要 8 地点、花小路 3 地点とも、それぞれ 8,656 人、1,155 人の減となった。これは、新型コロナウイルス感染症の影響による外出控え、及び日曜日の調査日が終日雨天であったことが主な要因と推察される。

また、主要 8 地点のうち、6、8 が前年に比べ大きく減少しており、沿道の商業ビルからの小売店や飲食店等の撤退が影響しているものと推察される。なお、7 のみ前年に比べ増加しているが、これは沿道のホテルがオープンした効果が表れていると考える。

## ●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

### ①. 美術館整備事業（八戸市）

事業実施期間	平成 27 年度～令和 3 年度【実施中】※変更予定登録中
事業概要	旧美術館跡地及び市有地の有効活用を図りながら、新しい美術館を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地再活性化特別対策事業（総務省） （平成 30 年度～令和 3 年度） 社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（八戸市中心拠点地区））（国土交通省） （平成 27 年度～令和 2 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	平成 30 年度に管理運営基本計画と実施設計を策定し、旧消防庁舎と交通安全協会の建物の解体、粗造成工事及び建物建設工事の完了を経て順調に進行し、令和 2 年度に竣工した。現在は 11 月の開館に向けて建物前の広場や館内整備を進めている。美術館開館後は、歩行者通行量が 500 人増加すると見込んでいる。
事業の今後について	予定通りの完成を目指す。

### ②. 八戸まちなか広場運営事業（八戸市）

事業実施期間	平成 30 年度～【実施中】
事業概要	「緑・水・光」などの自然要素を取り入れた街なかの「庭」のような広場を運営する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） （令和元年度～令和 5 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	平成 30 年 7 月 21 日にオープンし、街なかの「庭」のような役割を担う広場として、光や風、水といった自然の要素を感じられる開放的な空間となっている。三日町と六日町をつなぐ通路、日常的にくつろぐ場所となっているほか、イベントの開催場所として多くの人に活用されており、「はちのへマチナカ活性化プロジェクト事業」の効果とあわせ歩行者通行量が 5,300 人増加すると見込んでいる。
事業の今後について	来街者にとって心地よいと感じられる空間を提供するとともに

に、季節に合わせた魅力ある装飾や賑わいを創出する事業の実施、民間が企画するイベントを促すことで、地区全体の魅力向上、回遊性の向上、周囲への効果の波及等を図っていく。

③. はちのへマチナカ活性化プロジェクト事業（八戸市）

事業実施期間	平成 30 年度～【実施中】
事業概要	八戸の食や八戸圏域の特産品等を扱う「マチニワマルシェ」を開催する。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府） （平成 30 年度～令和 2 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和 2 年 9 月 12 日から 13 日にかけて、地域の生産者による食材や物産等を提供する「38FUUD FOOD MARCHE」を開催し、2 日間で約 1,500 人の来場者があり、来街機会の増加と賑わい創出に寄与した。「八戸まちなか広場運営事業」の効果とあわせ歩行者通行量が 5,300 人増加すると見込んでいる。
事業の今後について	引き続き「マチニワマルシェ」などのイベントを開催し、来街機会の増加と賑わい創出を図る。

④. 中心市街地オフィスビルパートナー制度事業（八戸市）

事業実施期間	平成 21 年度～【実施中】
事業概要	中心市街地内の市が認定したオフィスビルに誘致企業が入居した際に、改装に要した費用の一部等を支援する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） （令和元年度～令和 5 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	改修費用の一部支援により、質の高いオフィスビルの整備が進められ、中心市街地への企業誘致が推進され、オフィス従業員の増加に伴い、歩行者通行量が 100 人増加すると見込んでいる。
事業の今後について	引き続き事業を継続し、歩行者通行量の増加を図る。

⑤. IT・テレマーケティング関連産業立地促進事業（八戸市）

事業実施期間	平成 14 年度～【実施中】
事業概要	IT・テレマーケティング関連産業の誘致企業に対する支援（賃料補助・雇用奨励金による補助）及び八戸 IT・テレマーケティング未来創造協議会事業の推進（負担金）
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） （令和元年度～令和 5 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	賃料補助等の支援により、中心市街地に IT・テレマーケティング関連産業の誘致が進められ、オフィス従業員の増加に伴い、歩行者

	通行量が 130 人増加すると見込んでいる。
事業の今後について	引き続き事業を継続し、歩行者通行量の増加を図る。

⑥. 花小路整備事業（花小路周辺地区まちづくり協議会）

事業実施期間	平成 28 年度～令和元年度【済】
事業概要	段差解消、路面美装化等により、花小路を快適な歩行空間として整備する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（八戸市中心拠点地区））（国土交通省） （平成 30 年度～令和元年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和元年度に整備が完了し、バリアフリー化など歩きやすくなったことで回遊性の向上が図られ、計画最終年度の令和 5 年度には歩行者通行量が 2,705 人増加すると見込んでいる。
事業の今後について	八戸ポータルミュージアム「はっち」、八戸ブックセンター、八戸市公会堂、南部会館、美術館など、個別の機能を活かした連携を図り、中心市街地の魅力向上と回遊性の向上を図る。

⑦. 八戸ブックセンター運営事業（八戸市）

事業実施期間	平成 28 年度～【実施中】
事業概要	「本のまち八戸」を推進する拠点施設の運営をする。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） （令和元年度～令和 5 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	「本を読む人を増やす」、「本を書く人を増やす」、「本でまちを盛り上げる」の 3 つの基本方針に基づき、セレクト・ブックストアの運営、読書ルーム・カンヅメブースの貸出、ギャラリー展示、読書会やワークショップ等の自主事業を展開することにより、利用者の増加を図ることで、歩行者通行量が 296 人増加すると見込んでいる。
事業の今後について	利用者の増加に伴う歩行者通行量の増加を目指し、市内書店とのさらなる連携や学生など若い世代へのアプローチなどを検討する。

●目標達成の見通し及び今後の対策

事業は基準値に及ばない数値となったが、これまでの調査結果から、目標達成は可能と見込まれる。今後は、引き続き「八戸まちなか広場運営事業」、「はちのへまちなか活性化プロジェクト」、「八戸ブックセンター運営事業」等、各種事業を実施していくとともに、令和 3 年 3 月に建物が竣工した「美術館整備事業」及び「新美術館運営事業」については、本年 11 月の開館に向けて、広場の整備を進めていくほか、開館プレ事業等を経て、オープニング事業やその後の事業の企画・運営を行っていくことで、中心街への新たな来街機会の創出を図っていく。

また、「中心市街地にぎわい形成事業」により、一層の来街機会創出や回遊性向上に向けた取組を検討、実施していくこととしたい。

「公共施設来館者数」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 90～P. 92 参照

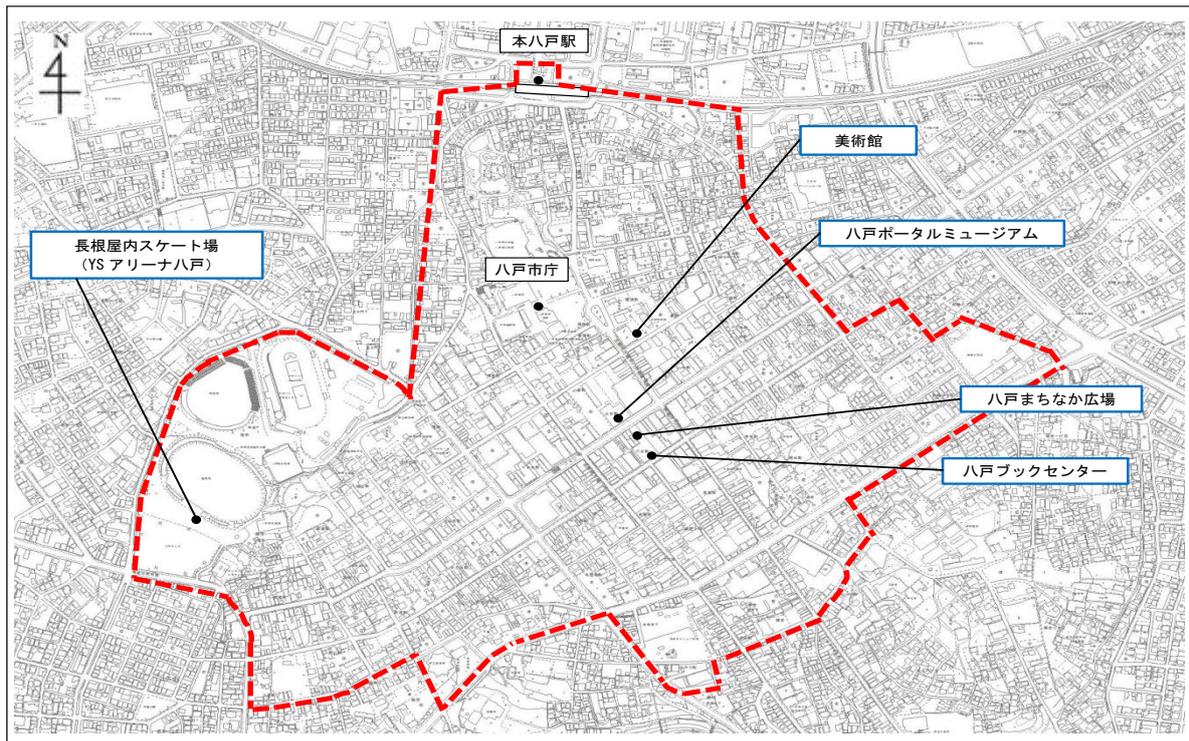
●調査結果の推移



年度	(人)
過去の平均値	1,167,000 (基準値)
H30	1,457,894
R1	1,650,048
R2	965,996
R3	
R4	
R5	1,968,000 (目標値)

- ※ 調査方法：各施設の来館者数を集計
- ※ 調査月：令和3年3月
- ※ 調査主体：八戸市
- ※ 調査対象：八戸ポータルミュージアム「はっち」・八戸ブックセンター、美術館・屋内スケート場・八戸まちなか広場「マチニワ」  
 ※八戸まちなか広場は平成30年7月21日開館。屋内スケート場は令和元年9月29日開館。美術館は令和3年11月開館予定。
- ※ その他：マチニワの来館者数はWi-Fi機能がある人で5分以上の滞在者数を基にスマートフォン保有率で除したものを来館者数としている。平成30年度は保有率58.2%、令和元年度は63.7%、令和2年度は81.7%で算定。

	基準値	H30	R1	R2	R5 (目標値)
八戸ポータルミュージアム	940,000	874,010	815,554	552,559	940,000
美術館	42,000 (旧美術館)	/	/	/	92,000
屋内スケート場	70,000 (屋外スケート場)	/	138,970	131,001	314,399
八戸ブックセンター	115,000	125,983	109,560	57,235	137,519
八戸まちなか広場	/	457,901	585,964	225,201	484,500
合計	1,167,000	1,457,894	1,650,048	965,996	1,968,000



### <分析内容>

「公共施設来館者数」については、令和2年度の来館者数は965,996人となり、前年度より684,052人減少し、基準値1,167,000人を下回る結果となった。施設別では、八戸ポータルミュージアム、屋内スケート場、八戸ブックセンター、八戸まちなか広場でそれぞれ前年度比32%減、6%減、48%減、61%減となった。なお、屋内スケート場は令和元年9月のオープンであることから参考値となる。減少の要因としては、新型コロナウイルス感染症の影響による外出控えの市民マインドや、感染症拡大を防止するため、休館等の措置を取った期間があったこと、施設利用者の定員を制限したこと、さらに、イベント等の休止を余儀なくされたことが大きく影響したと考える。

### ●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

#### ①. 美術館整備事業（八戸市）

事業実施期間	平成27年度～令和3年度【実施中】※変更予定登録中
事業概要	旧美術館跡地及び市有地の有効活用を図りながら、新しい美術館を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地再活性化特別対策事業（総務省） （平成30年度～令和3年度） 社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（八戸市中心拠点地区））（国土交通省） （平成27年度～令和2年度）

事業目標値・最新値及び進捗状況	平成 30 年度に管理運営基本計画と実施設計を策定し、旧消防庁舎と交通安全協会の建物の解体、粗造成工事及び建物建設工事の完了を経て順調に進行し、令和 2 年度に竣工した。現在は 11 月の開館に向けて建物前の広場や館内整備を進めている。美術館開館後は、年間 92,000 人の来館者を見込んでいる。
事業の今後について	予定通りの完成を目指す。

## ②. 八戸市長根屋内スケート場建設事業（八戸市）

事業実施期間	平成 26 年度～令和元年度【済】
事業概要	長根公園内にスケート、その他スポーツ、文化活動、イベント等に利用可能な屋内スケート場を整備した。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地再活性化特別対策事業（総務省） （令和元年度） 社会資本整備総合交付金（都市公園・緑地等事業）（国土交通省） （平成 28 年度～令和元年度） 社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（八戸市中心拠点地区））（国土交通省） （平成 30 年度～令和元年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、中止を余儀なくされた大会もあったため、来館者数は伸び悩んだが、全日本選抜スピードスケート競技会八戸大会や全日本ジュニアスピードスケート選手権大会が開催された。令和 5 年度には、年間 314,399 人の来館者を見込んでいる。
事業の今後について	引き続き、大会や各種イベントを開催することで、集客・賑わいの創出を図る。

## ③. 八戸ブックセンター運営事業（八戸市）

事業実施期間	平成 28 年度～【実施中】
事業概要	「本のまち八戸」を推進する拠点施設の運営をする。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） （令和元年度～令和 5 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	「本を読む人を増やす」、「本を書く人を増やす」、「本でまちを盛り上げる」の 3 つの基本方針に基づき、セレクト・ブックストアの運営、読書ルーム・カンヅメブースの貸出、ギャラリー展示、読書会やワークショップ等の自主事業を展開することにより、利用者の増加を図ることで、年間 137,519 人の来館者を見込んでいる。
事業の今後について	来館者の増加を目指し、市内書店とのさらなる連携や学生など若い世代へのアプローチなどを検討する。

④. 八戸まちなか広場運営事業（八戸市）

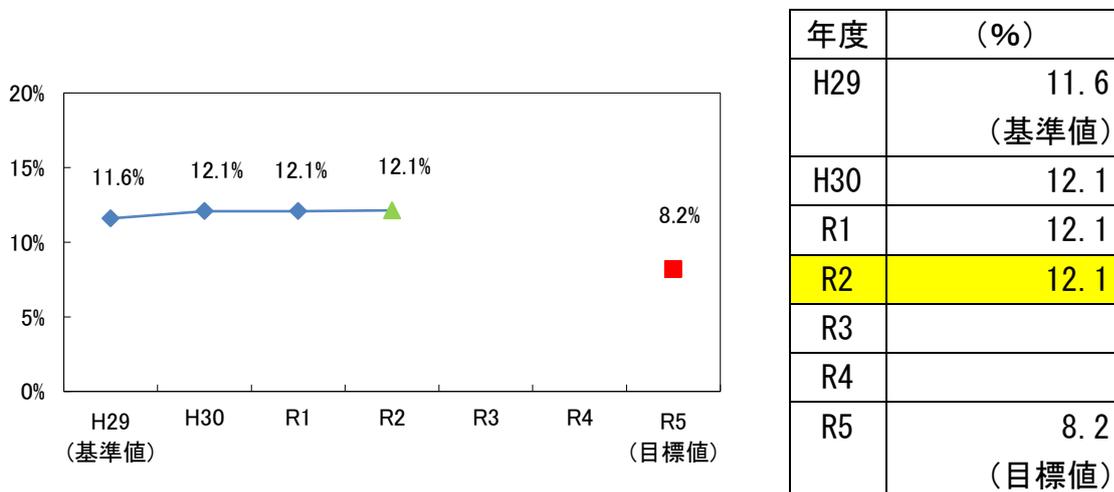
事業実施期間	平成 30 年度～【実施中】
事業概要	「緑・水・光」などの自然要素を取り入れた街なかの「庭」のような広場を運営する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） （令和元年度～令和5年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	平成 30 年 7 月 21 日にオープンし、街なかの「庭」のような役割を担う広場として、光や風、水といった自然の要素を感じられる開放的な空間となっている。三日町と六日町をつなぐ通路、日常的にくつろぐ場所となっているほか、イベントの開催場所として多くの人に活用されており、「はちのへマチナカ活性化プロジェクト事業」の効果とあわせ年間 484,500 人の来館者を見込んでいる。
事業の今後について	来街者にとって心地よいと感じられる空間を提供するとともに、季節に合わせた魅力ある装飾や賑わいを創出する事業の実施、民間が企画するイベントを促すことで、地区全体の魅力向上、回遊性の向上、周囲への効果の波及等を図っていく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

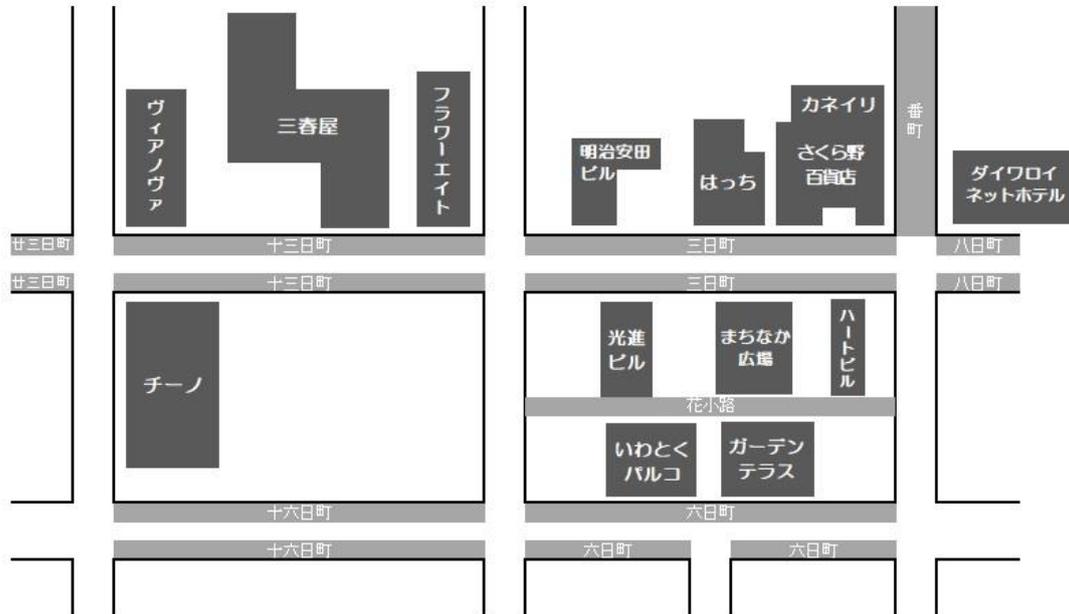
「公共施設来館者数」については、基準値を下回る結果となったが、これまでの調査結果から、目標達成は可能と考える。今後は、引き続き、「八戸まちなか広場運営事業」、「はちのへマチナカ活性化プロジェクト」、「八戸ブックセンター運営事業」等、各種事業を実施していくとともに、新美術館の開館による効果が見込まれるほか、八戸市長根屋内スケート場において、ウィズコロナ、アフターコロナを見据えながら、各種イベントや各種競技会を実施することで、来館者の増が見込まれる。

「空き店舗・空き地率」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 93～P. 95 参照

●調査結果の推移



- ※ 調査方法：目視による確認
- ※ 調査月：令和3年2月
- ※ 調査主体：八戸市
- ※ 調査対象：三日町・十三日町・六日町・十六日町・八日町角地・廿三日町角地・番町の1階路面店花小路に面した1階店舗



※網掛けが調査対象

### <分析内容>

「空き店舗・空き地率」については、平成30年度から令和2年度までの数値はいずれも12.1%で推移しており、基準値11.6%に到達していない状況である。これは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、開業に対するマインドが抑制されていることが主な要因と考える。

内訳として、前年度に比べ六日町・八日町でそれぞれ2空き店舗・1空き地が解消したが、八日町は「八日町地区複合ビル整備事業」の完了による効果である。一方、十六日町・番町ではそれぞれ2店舗・1店舗の空き店舗が増加した状況であり、街路によって若干の増減が見られる。

### ●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

#### ①. 八日町地区複合ビル整備事業（株式会社新八日町プロジェクト）

事業実施期間	平成24年度～令和2年度【済】
事業概要	老朽化したビルを建て替え、商業・居住機能を有する複合ビルを整備した。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（優良建築物等整備事業）（国土交通省） （平成24年度～令和元年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和2年度に供用開始し、商業・居住機能を有した複合ビルが完成したことで、空き店舗・空き地数が1箇所解消された。
事業の今後について	

②. 中心市街地商業機能誘致事業（株式会社まちづくり八戸）

事業実施期間	平成 30 年度～【実施中】
事業概要	中心市街地に商業機能を誘致する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、計画していたテストマーケティング事業の開催を中止した。
事業の今後について	実証実験を行いながら、商業施設の建設や運営方法等を継続して検討する。また、予定地近隣との相乗効果を図った利用拡大策についても検討していく。事業実施により、空き店舗・空き地数 1 箇所を解消を見込んでいる。

③. 中心商店街空き店舗・空き床解消事業（八戸市）

事業実施期間	平成 22 年度～【実施中】
事業概要	中心商店街の空き店舗に新規に出店する事業者に対し、店舗の改装等に要する経費の一部を支援する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） （令和元年度～令和 5 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和 2 年度は当事業を活用して 1 件の新規出店があった。事業実施に伴い、空き店舗 1 箇所が解消された。
事業の今後について	継続して事業を実施する。

④. はちのへ創業・事業承継サポートセンター事業（八戸市）

事業実施期間	平成 28 年度～【実施中】
事業概要	起業・創業支援及び事業承継支援を行う。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） （令和元年度～令和 5 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	創業に関する新規相談者は 147 人、事業承継に関する新規相談者は 19 人であった。「まちなか生業応援事業」とあわせて空き店舗・空き地 2 箇所が解消されると見込んでいる。
事業の今後について	継続して事業を実施する。

⑤. まちなか生業応援事業（八戸市・青森県）

事業実施期間	平成 20 年度～【実施中】
事業概要	①特別保証融資制度（県） 空き店舗への開業希望者に対し、融資支援を行う。 ②特別保証融資制度利用者に対する支援（市） ①の融資制度利用者で一定要件を満たしている者に対し、保証料補助、利子補給を行う。

	③商店街魅力づくり環境整備支援事業（市） 商店街の魅力づくりに資する環境整備に対し、支援を行う。 ④商店街交流人口拡大支援事業（市） 商店街の課題解決に資するソフト事業に対し、支援を行う。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） ※②、③、④のみを対象（令和元年度～令和5年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	空き店舗への開業者に対する融資支援を実施するとともに、商店街等が行う事業について支援を行った。「はちのへ創業・事業承継サポートセンター事業」とあわせて空き店舗・空き地2箇所が解消されると見込んでいる。
事業の今後について	継続して事業を実施する。

⑥. 横丁活性化事業（八戸市・民間）

事業実施期間	平成24年度～【実施中】
事業概要	八戸の観光資源である「横丁」の魅力を外に情報発信する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	横丁ラリーやアートイベントの開催により、魅力ある商店街づくりが推進され新規出店者の増加に伴い空き店舗の解消が図られる。 令和2年度は「八戸横丁月間～酔っ払いに愛を2020～」と題し、横丁関連イベントを集中的に開催した。
事業の今後について	継続して事業を実施する。

●目標達成の見通し及び今後の対策

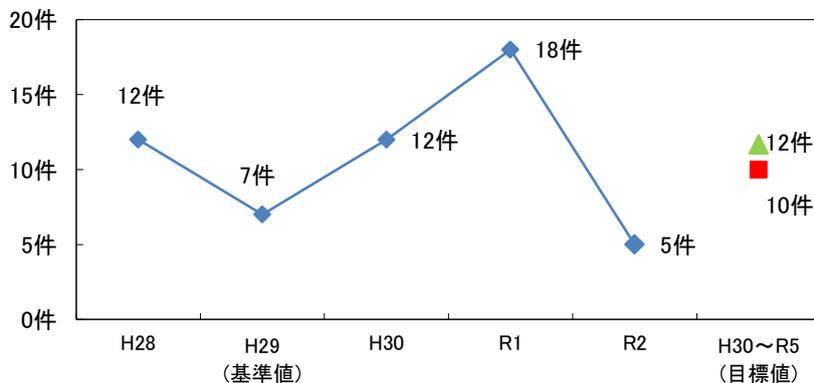
「空き店舗・空き地率」については、基準値に達していない状況である。しかし、このような中でも、明確にコンセプトを持ち、中心街での開業に活路を見出そうとする者が見られるなど明るい要因も伺えることから、それを後押しするべく、今後も引き続き、八戸市、八戸商工会議所、八戸市中心市街地活性化協議会が連携を密にしながら、「中心商店街空き店舗・空き床解消事業」、「はちのへ創業・事業承継サポートセンター事業」、空き店舗のマッチング事業等、各種事業を実施することで、空き店舗・空き地の解消を図っていく。

このことにより、目標達成は可能と見込まれる。

【参考指標】

「創業等支援件数」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 96～P. 97 参照

●調査結果の推移



年度	(件)
H29	7件/年 (基準値)
H30	12件/年
R1	18件/年
R2	5件/年
R3	
R4	
R5	
H30～R2	12件/年
H30～R5	10件/年 (目標値)

- ※ 調査方法：創業等支援件数を集計
- ※ 調査月：令和3年3月
- ※ 調査主体：八戸市
- ※ 調査対象：中心市街地区域内における創業等支援件数

<分析内容>

「創業等支援件数」については、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、令和2年度の件数は減少したものの、3ヶ年の平均値は12件/年と目標値の10件/年を上回り順調に推移している。なお、創業まで結びつかなかったものの、創業に関する市内全域の相談件数は前年度に比べ増加していることから、「はちのへ創業・事業承継サポートセンター事業」の目的・効果が発揮されていると考える。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. はちのへ創業・事業承継サポートセンター事業（八戸市）

事業実施期間	平成28年度～【実施中】
事業概要	起業・創業支援及び事業承継支援を行う。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） （令和元年度～令和5年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	創業に関する新規相談者は147人、事業承継に関する新規相談者は19人であった。事業実施により、中心市街地区域内において年平均10件の創業を見込んでいる。
事業の今後について	継続して事業を実施する。

②. 中心商店街空き店舗・空き床解消事業（八戸市）

事業実施期間	平成22年度～【実施中】
事業概要	中心商店街の空き店舗に新規に出店する事業者に対し、店舗の改装等に要する経費の一部を支援する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） （令和元年度～令和5年度）

事業目標値・最新値及び進捗状況	令和2年度は当事業を活用して1件の新規出店があった。事業実施に伴い、創業等支援件数が増加すると見込んでいる。
事業の今後について	継続して事業を実施する。

### ③. まちなか生業応援事業（八戸市・青森県）

事業実施期間	平成20年度～【実施中】
事業概要	<p>①特別保証融資制度（県） 空き店舗への開業希望者に対し、融資支援を行う。</p> <p>②特別保証融資制度利用者に対する支援（市） ①の融資制度利用者で一定要件を満たしている者に対し、保証料補助、利子補給を行う。</p> <p>③商店街魅力づくり環境整備支援事業（市） 商店街の魅力づくりに資する環境整備に対し、支援を行う。</p> <p>④商店街課題解決型まちづくり支援事業（市） 商店街の課題解決に資するソフト事業に対し、支援を行う。</p>
国の支援措置名及び支援期間	<p>中心市街地活性化ソフト事業（総務省）</p> <p>※②、③、④のみを対象（令和元年度～令和5年度）</p>
事業目標値・最新値及び進捗状況	空き店舗への開業者に対する融資支援を実施するとともに、商店街等が行う事業について支援を行った。事業実施に伴い、創業等支援件数が増加すると見込んでいる。
事業の今後について	継続して事業を実施する。

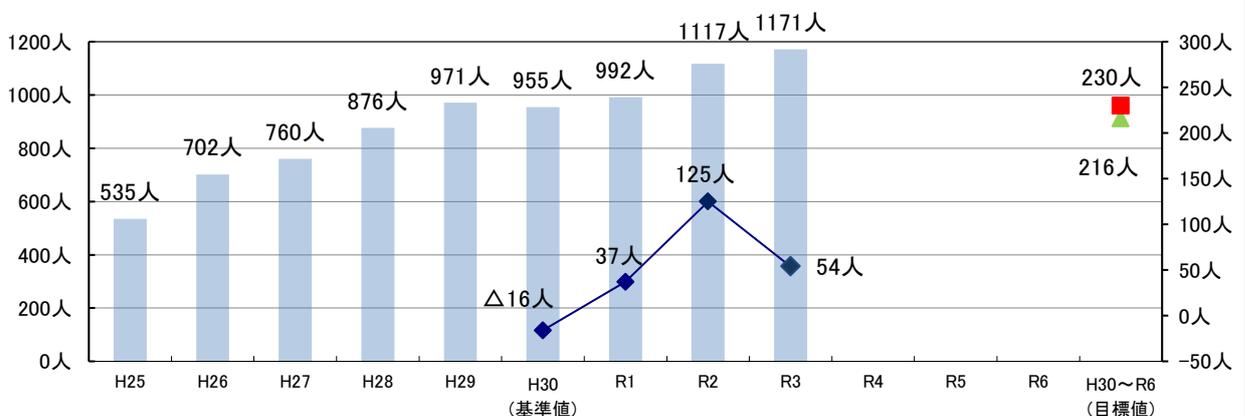
### ●目標達成の見通し及び今後の対策

事業は概ね順調に進捗しており、目標達成は可能と見込まれる。引き続き事業を実施し、中心市街地における創業等支援件数が増加するよう支援していきたい。

#### 【参考指標】

「誘致企業就業者数」※目標設定の考え方認定基本計画 P.97～P.98 参照

### ●調査結果と分析



- ※ 調査方法：誘致企業就業者数を集計
- ※ 調査月：令和3年4月
- ※ 調査主体：八戸市
- ※ 調査対象：中心市街地区域内における誘致企業就業者数

年	(人)
H29～H30	△16 (基準値)
H30～R1	37
R1～R2	125
R2～R3	54
R3～R4	
R5～R6	
H30～R3	216
H30～R6	230 (目標値)

### <分析内容>

「誘致企業就業者数」については、概ね順調に推移しており、目標値の230人に近づいている。これは、「中心市街地オフィスビルパートナー制度事業」などの効果により、企業誘致が進み、就業者が増加したためである。

### ●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

#### ①. 中心市街地オフィスビルパートナー制度事業（八戸市）

事業実施期間	平成21年度～【実施中】
事業概要	中心市街地内の市が認定したオフィスビルに誘致企業が入居した際に、改装に要した費用の一部等を支援する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） （令和元年度～令和5年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	平成29年度から令和2年度までで合計6件支援し、質の高いオフィスビルの整備が進められている。中心市街地への企業誘致が推進されたことに伴い就業者が累計216人となった。
事業の今後について	引き続き事業を継続する。

#### ②. IT産業集積促進事業（旧IT・テレマーケティング関連産業立地促進事業）（八戸市）

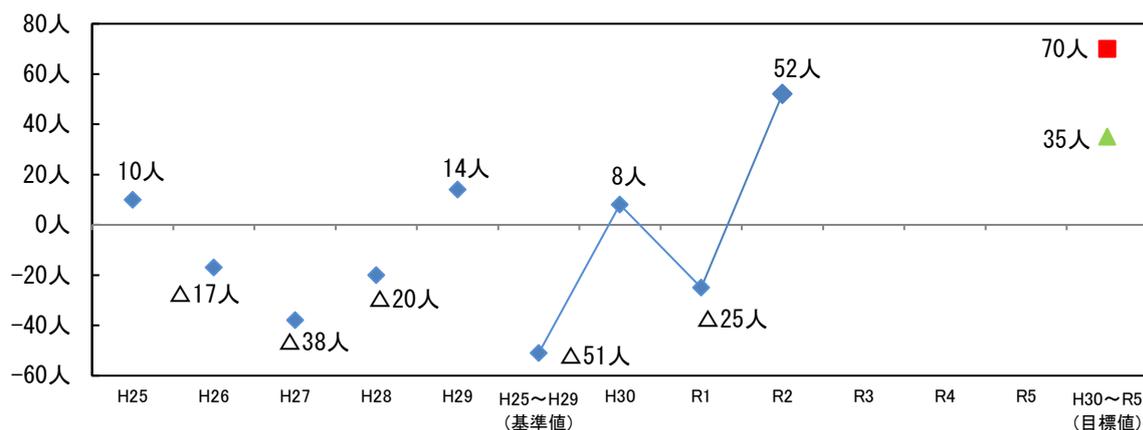
事業実施期間	平成14年度～【実施中】
事業概要	IT・テレマーケティング関連産業の誘致企業に対する支援（賃料補助・雇用奨励金による補助）及び八戸IT・テレマーケティング未来創造協議会事業の推進（負担金）
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） （令和元年度～令和5年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	支援を実施したことにより、中心市街地にIT・テレマーケティング関連産業の誘致が進められ、就業者が130人増加すると見込まれる。
事業の今後について	引き続き事業を継続する。

## ●目標達成の見通し及び今後の対策

事業は概ね順調に進捗しており、目標達成は可能と見込まれる。引き続き事業を実施し、中心市街地における誘致企業就業者数が増加するよう支援していきたい。

「中心市街地における人口の社会増減数」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 99～P. 101 参照

## ●調査結果と分析

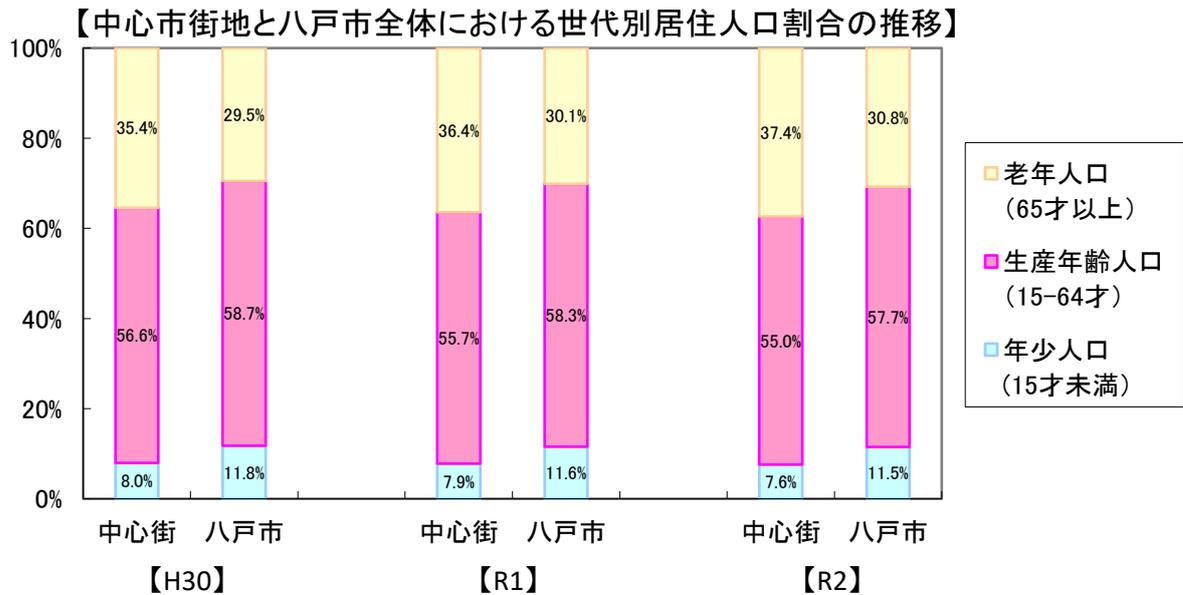


- ※ 調査方法：市の住民基本台帳データを集計
- ※ 調査月：令和2年9月
- ※ 調査主体：八戸市
- ※ 調査対象：9月末時点の住民基本台帳登録人口

年度	(人)
H25~H29	Δ51 (基準値)
H30	8
R1	Δ25
R2	52
R3	
R4	
R5	
H30~R2	35
H30~R5	70 (目標値)

## <分析内容>

「中心市街地における人口の社会増減数」については、概ね予定どおり推移し、目標値に近づいている。増加の主な要因は、「八日町地区複合ビル整備事業」の完了により、居住機能を有する複合ビルが供用開始となったためである。なお、中心市街地の世代別居住人口は次表のとおりで、令和2年度においては、年少人口、生産年齢人口、老年人口の割合はそれぞれ7.6%、55.0%、37.4%となっているが、八戸市全体の割合ではそれぞれ11.5%、57.7%、30.8%となっていることから、中心市街地においては、年少人口の割合が低く、老年人口の割合が高い状況である。



●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 八日町地区複合ビル整備事業（株式会社新八日町プロジェクト）

事業実施期間	平成 24 年度～令和 2 年度【済】
事業概要	老朽化したビルを建て替え、商業・居住機能を有する複合ビルを整備する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（優良建築物等整備事業）（国土交通省）（平成 24 年度～令和元年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和 2 年度に供用開始となったため、居住者が数値を押し上げる要因となった。
事業の今後について	

②. はちのへ空き家再生事業（八戸市）

事業実施期間	平成 30 年度～【実施中】
事業概要	空き家の実態を調査し、データベースと空き家等のポータルサイトを構築し、空き家所有者と利用希望者のマッチング支援を行い、空き家の利活用を図る。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（平成 30 年度～令和 2 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和 2 年度は、空き家実態調査及びポータルサイト保守を行うとともに、空き家対策の P R 動画も制作し周知に努めた。事業実施により、10 人の社会増加が見込まれる。
事業の今後について	引き続き事業を継続する。

③. ほんのり温ったか八戸移住計画支援事業（八戸市）

事業実施期間	平成 28 年度～【実施中】
事業概要	大都市圏等から当市への移住を希望する若年者世帯やひとり親世帯の U I J ターン就職の促進を図るため、就職希望者に対し

	て就職活動及び住居確保にかかる交通費、引越費用、住宅費、児童・生徒の学用品等購入費を助成する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	中心市街地への移住により社会増加が図られ、事業実施により21人の社会増加が見込まれる。
事業の今後について	引き続き事業を継続する。

#### ④. 旧柏崎小学校跡地広場整備事業（八戸市）

事業実施期間	平成30年度～【実施中】
事業概要	旧柏崎小学校跡地に八戸三社大祭山車小屋と広場を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（八戸市中心拠点地区））（国土交通省） （令和元年度～令和2年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	八戸三社大祭の山車小屋が整備されることにより、山車制作に携わる人が山車小屋近くに居住することに伴い社会増加が見込まれる。
事業の今後について	引き続き事業を継続する。

#### ●目標達成の見通し及び今後の対策

事業は概ね順調に進捗しており、目標達成は可能と見込まれる。引き続き事業を実施し、中心市街地の居住推進に向け各種施策に取り組んでいく。